

令和8年度 沼田市立薄根小学校 学校経営要覧

1 経営の基本的事項

(1) 学 校 目 標	【基本目標】 進んで学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成 【具体目標】 〇進んで学ぶ子（自主・創造・根気）・・・知 〇思いやりのある子（正義感・奉仕・博愛）・・・徳 〇体をきたえる子（健康・安全・体力）・・・体
(2) 学 校 経 営 の 方 針	【基本方針】 全教職員の力を合わせた指導と学校経営参画（一枚岩・同歩調） 【目指す学校像】 自信と誇りにあふれ、自分から動く学校 (1) 子供が自分に自信をもち、友達・学校・地域薄根を誇りに思う学校 (2) 教師が、子供・学校・地域薄根を誇りに思う学校 (3) 子供を一番に考える学校（子供目線・子供ファースト） (4) 保護者・地域から応援・自慢される学校 ＜経営スローガン＞ 【Usuneプライド・ファイナル】 ～つなぐ～ 「ひと・学び・思い」 『ひと』をつなぐ <子供>×<教師>×<保護者・地域薄根> 『学び』をつなぐ <教科>×<特活>×<総合>×<行事> 『思い』をつなぐ <薄根小の思い>×<池田小の思い>→<沼田城北小始動へ> ＜目指す教師像＞ 「子供のよさをみつけ、ほめ、認め、任せることを考える教師」 (1) 互いに気遣い、想像し、「自分のこと」として考える教師 (2) 理論だけでなく「まず動く・すぐ動く」教師（率先垂範・師弟同行） (3) 本質を見極め、「目的と手段」を区別して行動する教師 ＜目指す授業像＞ 「子供が中心で、教師は補助する授業（教えて任せる）」 (1) 勇気をもって子供に任せる授業 (2) 「やる気」にさせる授業（ワクワク・できそう・勉強してよかった） (3) 「小さなハードル」と「成功体験」を積み重ねる授業 (4) 「日常生活」と結び付け、「ゴール」が明確で「見通し」がもてる授業
(3) 今 年 度 の 努 力 点	(1) 「知識・技能」と「自分の考え」を両輪にした確かな学力の向上【2026学力向上対策】 ① 学習内容を徹底して教え、何度も繰り返して習熟させる学習によって、「基礎的な知識・技能」を確実に身に付けさせる。 ② 「自己決定・自己選択」する活動を設定して「自分の考え」をもたせ、互いに交流し合う活動を積み重ねることによって、「自分で考える力」を伸張させる。 ③ 「子供に任せる活動」を積極的に設定し、子供が自分で考えながら進んで学習に取り組む能力を向上させる。 ④ 家庭学習について、家庭と積極的に連携し、「主体的な学習習慣」を伸長させるとともに、子供自身が自ら学習を調整する能力を向上させる。 (2) 安全の確保と健康・体力の保持増進【セイフティ沼田】 ① 登下校の行動指導と通学路の安全点検とを徹底して、登下校と緊急時の安全を確保し子供の命を確実に守る。「児童の命を徹底的に守る」 ② 学校保健委員会を核にした児童主体の保健活動を推進するとともに、家庭との連携を強化することにより健康教育を充実させる。 ③ 運動の楽しさや喜びを味わえる「体力向上プラン」を基に、日常的・計画的な体力づくりを強力に推進して児童の体力を確実に向上させる。 (3) 全教育活動における豊かな心の育成【児童生徒の命を守り、育てる教育】 ① 自分に自信と誇りがもてるような指導と支援を意図的・計画的に推進して、自己肯定感・自己有用感を着実に高める。（得意・好き・やりたい） ② 教材研究の深化による「ねらいの明確化」と「考えを揺さぶる発問」の意図的な設定によって、「考え議論する道徳」を一層充実させる。 ③ 特支Coを中心に、全教職員が児童の「困り感」に寄り添う関わりを充実させることにより、当事者意識をもった組織的な特別支援教育を実現する。 ④ 特質を踏まえた学級活動を計画的かつ確実に実施し、児童一人一人に自分の成長を実感させるとともに、他者意識を意識的に涵養し、支え合い、高め合う集団を実現させる。 (4) 家庭・地域の強みを生かした学校づくり【ぬまた未来創造学】 ① 学校運営協議会を核に、地域と連携した教育活動を積極的に推進することによって、Win-Winの関係を実現させ、「地域を愛し誇りに思う心」を育成する。 ② 学校統合に向けて、母校薄根小学校への思いを深化させると共に、池田小学校との連携を計画的に推進し、沼田城北小学校への期待と希望を高めていく。 ③ 次年度を見通しながら積極的・計画的に保護者と連携することによって、互いに顔が見える関わりを実現させるとともに、確固とした信頼関係を築く。 ④ SC・SV・SSW・福祉部局等の外部機関と積極的に連携して、児童のよりよい成長に向けた教育相談、生徒指導、特支教育を一層充実させる。 (5) 全教職員の経営参画と職能成長 ① 各主任が分掌業務の目的を明確にするとともに、コーディネーター意識を発揮し、全職員が関わる組織的な分掌運営を充実させる。 ② 「報告・連絡・相談・確認・記録」を基盤にした日常的かつ組織的な情報共有と、課題解決に向けた迅速・確実・誠実な対応を充実させる。 ③ 教育公務員としての高い倫理観と日常における服務規律意識を向上させ、「子供に背中で語れる教師」の姿を実現する。 ④ 互いに信頼し合い、風通しがよく、「心理的安全性」が高い職場の実現に向けて、教育活動の効率化と業務削減、働き方改革の一層の充実を図る。 ア) 「学校以外が担うべき業務（登下校指導当番の見直し、学校徴収金の管理変更、地域学校協働活動推進員との定期的な連携等）」を積極的に推進する。 イ) 3分類以外の学校における措置（真に必要な授業時数への見直し、業務時間の確保に向けた授業コマ数の変更、清掃なしの日を位置づけた校時表の工夫等）を計画的に推進する。
(4) 研 修 計 画	(1) 研修主題 主体性をもって学びに取り組める児童の育成 ～課題解決に向け、「選択」を取り入れた学習活動の工夫を通して～ (2) 研修のねらい 学習の様々な場面において「児童が自由に選べる活動（場・方法・人数・順番・道具等）」を意図的・計画的に位置づけるとともに、「自己決定・自己選択」を児童自身が確認・修正する場を設け、自分で決めて動き出す力を育成する。